



町の観光・交流拠点として、賑わいの創出を目的に進められている町コミュニティセンター改修事業。広報かがみいし7月号でこれまでの経過を紹介したところですが、今月号では、実施設計の概要を紹介しながら、町の中心に位置し、JR鏡石駅と併設する特性を活かしたまちの駅の活用策を探り、地域の活性化にどう結びつけていくかを考えていきます。また、7月に公募した「鏡石まちの駅」の愛称には全国から37点の応募があり、現在、まちの駅運営準備会で選考中。唱歌「牧場の朝」のまちの玄関としてどう生まれ変わるか期待が寄せられています。

今回の改修事業では、1階のJR乗車券販売窓口を除く全てをリニューアルし、JR利用者の待合機能の充実をはじめ、町で作られる農産物やお菓子などの特産品の展示販売、軽食・飲物を提供するコミュニティカフェ、販売スペースを貸し出すチャレンジショップ、レンタルボックスなどが設置される予定となっています。

本町の中心である駅に人が集まり、町の特産品が勢揃いするなど、「人・物・情報」が一堂に集まる施設として、多くみなさんと賑わうことが期待されています。

また、待合ホールには町のイベントや観光、飲食店のグルメ情報などを紹介する電子掲示板（デジタルサイネージ）を設置する予定で、タッチパネルで町内外のあらゆる情報をお知らせできるようにする予定です。

これにより、独立した飲食・キッチンスペースの利用が可能となり、夜の待ち合わせなど多目的な施設の活用ができることになり、用途に合わせた使い方ができます。

町の観光・交流拠点整備

鏡石の玄関創生

“人・物・情報”が集結

まちなかの賑わい創出

今回の改修事業では、1階のJR乗車券販売窓口を除く全てをリニューアルし、JR利用者の待合機能の充実をはじめ、町で作られる農産物やお菓子などの特産品の展示販売、軽食・飲物を提供するコミュニティカフェ、販売スペースを貸し出すチャレンジショップ、レンタルボックスなどが設置される予定となっています。

多目的トイレ

段差解消スロープ

施設の改修にあたっては、「人によさしい」を念頭に、多目的トイレの設置をはじめ、待合スペースに車いすでも行けるように段差解消スロープを設置する予定です。

飲食スペース

専用入口増設

旧商工会事務所は、今回の改修事業のメインとなる物販スペース、飲食スペース、キッチンスペース、待合フリースペースが設置され、次ページの機能を持たせる計画です。

今回新たに、この各スペースへの入口を増設し、時間帯

また来なくなる

憩いの場所に



鏡石町の歴史・文化・産業 運営準備会副委員長 今泉 清子 さん

コミュニティカフェ・特産品販売スペース

上図は、改修予定のコミュニティセンターの平面図です。ご覧のとおり、JR乗車券窓口以外の全てをリニューアルする計画で改修が進められる予定です。

JR鏡石駅としての待合ホールは、これまでの売店を撤去し、より広いスペースを確保。町内外の情報発信機能を持たせるためにデジタルサイネージや各種情報を展示するスペースを確保しています。

また、一角には観光案内所も兼ねた管理事務所を設ける予定です。

コーヒー・ジェラート

軽食提供

メインとなる物販スペースやキッチンスペース、飲食スペース、待合フリースペースでは、それぞれの目的に合わせた活動が行われる予定です。特に、キッチンスペースと隣合わせになっている飲食



スペースでは、コーヒーやジェラート、ソフトクリームなどの販売も予定しており、さらに、キッチンスペースで調理された軽食なども一部提供する予定です。

田んぼアート事業

との連携も

6年目を迎えた田んぼアート事業は、町の観光として定着してきており、今年には既に2万人を超える方が観覧に訪れています。この田んぼアート事業との連携により、まちの駅が多くの人を来場者で賑わうよう工夫を凝らした仕掛けと事業を行うことが課題です。



運営準備会副委員長 清野 明 さん

町に良い変化が起きていることをイメージ

子どもからお年寄りまで訪ねてまた来なくなる憩いの場所になるように町民の皆さまからも良いアイデアを募集中です。

「何もない駅」から「何かある駅」に変わること、町に良い変化が起きていることをイメージしながら意見を話し合っています。「交流・発信・賑わい」機能を有する、ふらっと立ち寄りたくなる魅力あるまちの駅が、町の人が他に誇れる施設になり、育っていくことにご期待ください。



鏡石まちの駅 1階平面図

